

コマプスムニダ。
待ってるからね、素敵な未来で—



時は2045年、朝鮮半島が統一し、朝・日国交正常化もなされた時代、南北朝鮮の人々、そして在日同胞をはじめ在外朝鮮人たちは、朝鮮半島と日本および近隣諸国を自由に往来するようになり、東アジアをフィールドにビジネスと生活、交流の幅をどんどん広げはじめていた。在日朝鮮人の諸権利も大いに改善されていくなか、民族教育も飛躍的に発展、拡充し、変貌をとげている。在日5世、6世となる朝鮮学校の生徒たちは、ごく当たり前のように朝鮮人として学び、ひろがる夢を自由に追い求めるようになっていた。物語の主人公・ミレ(未来)は、とある朝鮮高校に通う3年生。日本全国の朝鮮学校はもちろん、統一祖国との交換留学や、在中、在口、在米同胞の仲介による語学研修も盛んで、知り合った同胞の友達がいっぱいだ。SNS上では数ヵ国語を駆使してコミュニケーションをと

る。修学旅行は「万景峰2030号」に乗り、ウリナラへ。白頭山から二班に分かれ三千里半島を縦断。1班は京義線で新義州～ピョンヤン～ソウル…、2班は東海線で羅先～金剛山～釜山へ。最後に漢拏山で合流しよう! 高3はそろそろ卒業後の進路の悩みが。ミレもやりたいことが多くて迷っている…。ミレの通う朝鮮学校は創立100周年を迎える年で、色々な記念行事がめじろ押し。特に高3は忙しい。ミレもイベント続きでいささかうんざりしている。そんなミレに、100年の校史整理作業の責任者を任せた先生。昔のアルバムには、長い間この学校で教師をしていたミレのハルモニ(おばあさん)の若かりし頃の写真も。ハルモニは2年前、まだ若くて亡くなった。ミレは…ハルモニのことがあまり好きじゃなかった。いつも昔の苦労話ばかり聞かされ、家でもまるで先生みたいで…。おかげで歴史が

苦手になったミレ。よりによってその私に校史の整理なんて。おまけに、大切な資料室の鍵をどこかに失くしてしまった。あーあ、また先生に怒られる。鍵を探さなくちゃ。放課後の教室に一人残り、憂鬱そうにアルバムの写真を眺めながら、いつの間にかうとうと眠り込んでしまったミレ。夢うつつのなか、悲しそうなハルモニの声が聞こえる。誰かがミレを搖り起こす。目を覚ますと、目の前に変てこな格好をした小さな女の子が。「私はコッポン! 昔会ったのに、覚えてないの? ミレ、大変! わるいやつが、鍵を奪おうとしているの! ミレのハルモニが、悲しんでいるんだよ。ウリハッキョがなくなっちゃう、って。鍵を守らなきゃ! お願い、いっしょに来て!」半信半疑のまま、コッポンに引っ張られていくと、そこは資料室の扉。中からふたたびハルモニの呼ぶ声がする。そこは過去へと続く扉だった。コッポンを追いかけ、ドア

の中へと入るミレ。そして時空を飛び越え、30年前の世界へとやってきた。創立70周年記念運動会を間近にひかえた朝鮮学校。だが生徒たちは悲しみに沈んでいる。学校が様々な困難のため、来年から休校することになるという。そこでミレは、まだ若かりし頃の、教員だったハルモニと邂逅するが…。2015年の在日同胞社会。民族教育をとりまく厳しい現状、襲いかかる試練…だが同胞たちは学校を守るために必死で苦闘していた。民族教育と同胞社会の伝統、バトンは、いかに受け継がれてきたのか。その力の源へと、さらに時間をさかのぼるミレとハルモニ。そしてふたたび幸福な未来へと戻るために、閉じられた扉を開かねばならない。失われたその鍵はいったいどこに、いったい誰が持っているのだろう? —— 未来への鍵を探すミレの旅が、今はじまる。